

泉北部レクリエーションゾーン活用事業基本計画書（案）について

ご意見	回答
「焼き物・陶芸」というキーワードは外せないと思いますが、「美濃焼」にこだわらないコンテンツや集客戦略を考えていただきたいと思います。例えば、静岡県島田市にある廃校を利用した「島田市山村都市交流センターささま」では、国際陶芸祭を２年に１度開催しており、山奥の山村地域であるにもかかわらず、世界各地から著名な陶芸家が訪れています。 土岐市（東濃地方）は、日本最大の陶磁器産地として知られていますが、陶磁器そのもののマーケットが縮小している中、ブランディングに失敗した「美濃焼」にこだわっていても、現在までこれといった有効な手段を打てていないようです。美濃焼のプライドがあるならば、逆に日本全国、世界中の焼き物が集まるような発信地・体験地として位置づけ、その中で美濃焼の存在感を示していくことが重要です。 折角伝統的な技術や資源が揃っているのに、「美濃焼」が美濃焼自身の発展を邪魔しているように見えます。そのため、美濃焼にこだわりすぎず、より広い視野を持って、新しい価値を生み出す努力が必要です。 また、様々なソフト（催事）に柔軟に対応できるような多用途・多目的施設の建設が望ましいですが、エリアをレクリエーションというキーワードでコンセプト化するのであれば、建築デザインなどはコンセプトと親和性がある機能やデザインであるべきと思います。	貴重なご意見ありがとうございます。当市としましても、陶磁器産業の振興のために、産業基盤の強化を図るとともに、美濃焼のPR強化や更なる販路拡大等を行っていきたいと考えております。それには、おっしゃるように日本全国、世界に向けて美濃焼の存在感を示していくことはとても重要であり、受け継がれた技術や資源にも着目し、新たな価値を生み出せるよう事業を進めていきたいと考えております。 また、当施設は、未来にわたり市民の皆さん、土岐市を訪れる皆さんに十分に利用していただけるよう、デザインや機能などを精査して事業を進めてまいります。
キャンプ場として整備して頂けると非常に嬉しいです。土岐市民は割安で利用出来る等の特典があると、土岐市に引越してきて良かったと思うので小牧の未来館の様に市独自の市民向けの事業にして欲しいです。 土岐市には市民向けの施策が少ない様に思いますので。	貴重なご意見ありがとうございます。 基本計画書(案)にありますよう、キャンプフィールドの整備も予定しております。また、市民の皆さんが大いに利用できるよう、事業を進めてまいります。